
Dream “ not ” came true ?

麻生柚葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dream “not” came true ?

【Zコード】

Z5927M

【作者名】

麻生柚葉

【あらすじ】

これは、ある日の一人と夢のお話

どちらが夢で、どちらが現実？

どちらが正しく、どちらが逆さま？

正夢を見たのは誰か、逆夢を見たのは誰か、現実は一体・・・どれか

01・あるひのことです。大雨がふつて馬車がたおされました。

01・あるひのことです。

大雨がふつて馬車がたおされました。

ああ、なんてついてない日なんでしょう。

馬車の前に誰かが、何か投げつけたのでしょうか
馬は動転し、そのままバランスを崩し倒れてしまいました。
車輪は外れ、もう走る事は出来なさそうです。

ああ、なんてついていない日なんでしょう。

外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い

そして倒された衝撃で、僕は足を挫いてる

長い長い道のりを、雨に打たれて屋敷まで帰ってきて
ジクジクと痛む足
体温を奪われ、冷える体

そして一番最初に見たのは、あの子の顔でした。

穢れ無き、真っ白な服を纏うあの子に
泥にまみれて、真っ黒な服を纏う僕

きっと、これは何かの暗示
真っ白な君と真っ黒な僕と

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そう、誰かが言っているようだ

どこか遠くで雷が叫ぶ声がした。

01・あるひの「」です。大雨がふつて馬車がたおされました。（後書き）

Fantastic Syndrome スピノオフ
正夢と逆夢の話。

一人称は「僕」ですが、女の子です。

〇二・ つわのひのじとじや。

みづやく歩けるようになりました。

挫いた足は、まだ痛むけれど歩けなこ事はないのです。

少し華奢な杖をつき、片足を引きずるような形ではありますか。

真っ白なあの子が、心配してくれたのが
どこかむず痒く不思議な感覚でした。

ああ、でも何故でしょう
どじか歪んで見えるのは
そり、真っ白なはずなのに
どじか染みがあるみづに見えるのは・・・

考えよつと思つても、どじか頭には靄がかかつてゐるよつて
答えが解らないままで、そのまま僕は進み続ける

真っ白なあの子はお見舞いだと

青い青い薔薇の花を一輪くれました。

03・そのままつぎのひとと。高に塔からつれぬとれました。

03・そのままつぎのひととです。

高に塔からつれぬとれました。

その時、僕は星を見るために離れた塔に昇つていて少し肌寒いなと思いつつも、観察を続けていたのです。

その日は、月が欠けた日

こんな日には、空の散歩をしてみたいと空想するくらい月の光に邪魔される事なく星が綺麗に見えました。

しかし、そのまま時は過ぎずして
星に夢中で気づかぬままに

よく解らぬままに足は地面を離れ、そのまま転落
空想が現実になり、僕は空を飛びました
ただ違うのは、掴む事無く、零れていって

落ちていく中、見えたのは
夜の暗闇に似合わない、あの子の白い白い白い・・・

04・やのつらのあわのじとじ。

04・やのつらのあわのじとじ。

めぐめてすべてを夢にしました。

だって、僕は生きていて
体の何処も痛くない
足も挫いてなどいなく、置いておいた杖も無い

ああ、これは夢だった。

何て嫌な夢でしょう

笑ってしまいます

あの子が僕を突き落とすなんて事あるわけが無いのに

これは、召されるのならばなんと言つ蟠なのでしょう。

“悪夢”でしょうか

夢に捕らわれるなんてくだらない。

大きく一つ伸びをして、ベッドから飛び降りました。

唯一つ、あの子から貰った薔薇だけが
部屋の花瓶に挿してあつた事に、僕は気づけない

05・あるひの「」です。大雨がふつて馬車がたおれました。

05・あるひのことです。

大雨がふつて馬車がたおれました。

今日は、なんてついてない日なんでしょう。

飛んできた虫に馬は動転し、そのままバランスを崩し倒れてしまつ
なんて
しかも、酷い事に車輪は外れてしまいました。
今日は「」のまま歩いて帰るしかなさそうです。

今日は、なんてついてない日なんでしょう。
外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い
運悪く、僕は足を挫いてしまいました。

長い長い道のりを、傘を差しながら屋敷まで帰つてきて

ジクジクと痛む足

体力を奪われ、疲れきった体

そして一番最初に見たのは、あの子の顔でした。

星一つ無い夜空の黒を纏うあの子に
晴れ渡つた朝空の白を纏う僕

これは、きっと何かの啓示
真っ黒な君と真っ白な僕と

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そう、誰かが言つてゐるようだ

泣き続けていた雨が上がった。

〇九・ つまらぬことばかり。まだ、歩き難くなつませとでした。

〇九・ つまらぬことばかり。

まだ、歩き難くなつませんでした。

挫いた足は、まだ痛み歩くのはまだ難しそうです。
やはり、無理をして歩いて帰つて来たからでしょうか
少し華奢な杖をつき、多少の移動ならできますが。
安静にしていなければいけません。

真つ黒なあの子が、心配してくれたのが
どうかむず痒く不思議な感覚でした。

ああ、でも何故でしょう
どうか嬉しそうに見えるのは
そう、まがまがしく真つ黒で
どうか狂氣が含んであるように見えるのは・・・

考えようと思つても、どこか頭には霧がかかっているようでもしかしたら僕のことが嫌いなのかもしない
そう、思つてしましました。

真っ黒なあの子はお見舞いだと
青い青い薔薇の花を一輪くれました。

〇七・そのままつぎのひのことです。高に塔から落ちました。

〇七・そのままつぎのひのことです。

高い塔から落ちました。

その時、僕は星を見るために離れの塔に昇ついて少し肌寒いなと思いつつも、観察を続けていたのです。

その日は、月が満ちた日
こんな日にば、空を飛んで月に近づいてみたいと空想するへりへり雲に邪魔される事なく満月が綺麗に見えました。

そして、身を乗り出しすぎていたのでしょうか
月に夢中で気づかないままに

あつという間に足は塔から離れ、そのまま転落
空想とは異なり、僕は月から遠ざかりました。

落ちていく中、見えたのは
夜の暗闇がよく似合う、あの子の黒い黒い黒い・・・

〇八・やのつわのあわのじとじや。あれにて夢だと呟づかれました。

〇八・やのつわのあわのじとじや。

あれにて夢だと呟づかれました。

だって、僕は生きていて

体の何処も痛くない

足も挫いてなどいなく、置いておいた杖も無い

ああ、びっくりした。

びつして途中で気がつけなかつたのでしょうか。

あの子がくれた薔薇は青かつた・・・・とこいつのこ
本当に、笑つてしまします。

これは、名付けるなりませんと書つ夢なのでしょう。

“予知夢”?

だとしたら、笑い事ではありませんが

夢を深く考えても仕方ない。

大きく一つ伸びをして、ベッドから飛び降りました。

部屋の花瓶には、薔薇は挿してはありません
しかし、部屋が薔薇の香りで包まれている事に、僕は気づけない

09・あるひのじです。大雨がふつて馬車がたおされました。

09・あるひのことです。
大雨がふつて馬車がたおされました。

あれ?
どうして?どうして?

これは、夢の続きなの?

馬車はバランスを崩し倒れてしましました。
車輪は外れ、もつ走る事は出来なやうです。

可笑しいな、どうしてかな?

だけど、ずつとこつとしているわけにも行きません

外は大雨、屋敷までの道のりはまだまだ長い

長い長い道のりを、雨に打たれて屋敷まで帰つてきて

ジクジクと痛む足

ああ、痛い

体温を奪われ、冷える体

夢と全く同じだなんて

そして・・・

一番最初に見たのはあの子の顔でした。

穢れ無き、真っ白な服を纏うあの子に
泥にまみれて、真っ黒な服を纏う僕

ビリショウもなく、恐怖を覚えた

きっと、これは何かの暗示

あれは夢からの警告

真っ白な君と真っ黒な僕と

それはきっと“予知夢”なんだね

相反する僕達は相容れることなど無いのだと、
そう、誰かが言っているように

鈍器で頭を殴られたようだつた。

10. ハルのじのじとじ。

10. ハルのじのじとじ。

まだ、歩けぬよひになつませんでした。

馬車が倒れて、あの子が足を挫いたと聞きました。
やはり、あの夢は“予知夢”だったのでしょ？
でも、それなりに“僕ではなくあの子”なんでしょうね……。

やつと挫いた足は痛み、歩く事は難しい事でしょ？
やはり、無理をしそぎました。

少し華奢な杖をつき、多少の移動ならできやうですが
安静にしていてほしこものです。

真つ黒のあの子を心配して

温室から薔薇を一輪摘んできてお見舞いこましじょ？。

ああ、でも何故でしょ？

どこか恐れているように見えるのは

-----あの夢は、“悪夢”じゃない。“予知夢”

そう、まがまがしく真っ黒で

どこの狂氣がゅうへんであるよつに見えたのは・・・

-----だつてこれから君が僕を殺すんでしょうか？

考えよつと思つても、あの子に得体の知れない恐怖が募り

“夢”の通りに嫌われているかもしけないと

そう、思つてしましました。

真っ黒なあの子の為に、

流石に、青い薔薇は無いので綺麗な綺麗な白い薔薇を渡しました

11・そのまま塔の上に立た。高に塔からつれぬれなれ・・・

11・そのままつぎのひの」とです。

高に塔からつれぬれ・・・

たくはありません。
だから、だから、だから・・・

・・・もしも、あれが“予知夢”なら、あの子が塔から落ちないよ

うひ
・・・あの子を助けてあげられるよ

もしも、あの子が僕を突き落とすなら
何故か理由が知りたいよ

・・・今日の目的は星を見るためじゃない

今日の目的は星を見るためじゃない

二人、顔を合わせる塔の上
欠けた月が照らす夜

照らし出される相手の顔に緊張が見えました。

一步踏み出そうとし、恐怖で竦み足が縛られました。

- - - ああ一どつか落ちてしまわないので

伸ばされる手に、恐ろしさだけが募つていつて

- - - 必死にあの子に手を伸ばして・・・

僕はその手を拒絶した

そして、そのまま

夢が現実になり、僕は空を飛びました

やうでぬづくへ、あの夢は・・・

- - - 落ちるあの子

- - - 夢中で伸びした手は體中をかするだけで虚空を掴み、聞く事
は無く・・・

『あの夢は、"正夢"だった。』

- - - あの子は、塔から落ちました。

落ちていぐ中、見えたのは

夜の暗闇に似合わない、あの子の白い洋服と・・・
泣き出しそうな、必死な顔でした

12・やのうしゆのあらわしとです。やして、

12・やのうしゆのあらわしとです。

田の前に横たわるあの子は田を開いたまま
田を開けることせりませんでした。

夢だと書いて欲しかった

ベッドの上で沢山の包帯を巻きながら眠り続けるあの子
塔の下に植えてあった薔薇達のお蔭で、一命は取り留めだと医者は
書つ

ただし、こつ田が覚めるかは分らないと

どつじて、どつじて・・・

助ける事が出来なかつたのだからつ

そして、あの夢は、なんだつたのでしょうか。

全て外れてしましました。

馬車は倒れず、足も挫かず、塔から落ちもしませんでした。

『あの夢は、『逆夢』とでも書つのでしょうか?』

「だけど、僕が夢で見た事は、あの子が全て体験してしまいました。どうして？分りません。」

僕はあの子の傍らで、その手を握りながら考えます。
しかしどこか頭には靄がかかつているようで・・・

疲れてはいるのではなか

そう言えば、あの子の事が心配でまだ一晝も眠つていません。

何処からか、薔薇の花の香りがして、うつむいてしまってきます。

とて甘心坤よい香りが胸の中は広かります
ふわっと薔薇の香りに囲まれて、ゆうく

少しだけ、眠りましょう

僕が田を覚ましたときに、あの子も田を覚ましてくれる事を願つて

誰かが、お見舞いで置いていったのでしょうか。
部屋の花瓶には一輪の青い薔薇の花

部屋の花瓶には一輪の青い薔薇の花

そして、めざめることが出来ずに一人は“夢”になりました。

12・その他の話題（後書き）

最後までよんでもいたときありがとひびきました。
いかがだったでしょうか『Dream “not” came true ?』

タイトルですが、正夢？逆夢？？
みたいなノリを出したくて、『?』がついてたり
何処からが何処までが“not（否定形）”本当の事なのか区別が
つき難い・・・
と言った意味合いな感じです（無理矢理）

分り難いのですが、最初の三話真っ黒なあの子が正夢を見て
真ん中の三話真っ白なあの子が逆夢を見ています。
そして、最後が現実に起についた事になつてます。

こひじて、彼女らは“夢の世界”に連れて行かれ
“夢”になりました。

『Fantastic Syndrome』の前のお話（過去話？）
と捉えてください良いと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5927m/>

Dream “not” came true ?

2010年10月31日00時04分発行